

# 匿名のまま情報入手

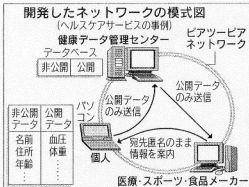
## ニーモニックが通信技術

セキユリティソフトウェア開発ベンチャー企業のニーモニックセキユリティー(大阪市、国米仁社長)は東京大学などと共同で、個人情報の保護と活用を両立できる通信技術を開発した。匿名性を保ったまま個人データを公開したい顧客に対し、あて先匿名のまま様々な情報案内サービスを提供できるようになるという。今年度中にも実証実験を進め、来年度にも実用化を目指す。

### 個人データ 保護・活用を両立

東京大学の今井秀樹教授、富士通プライムソフトテクノロジ(名古屋市中)毛利良男社長)などと共同開発した。

開発した技術は個々のコンピュータで公開デ



ータと非公開データを分け、公開データのみを通じて、信頼に流す一方、匿名性を保ったまま情報入手もできる。

例えば「健康診断データを公開して病気の治療に

できる。

ネットワークにつながった個々のコンピュータが、中央サーバーを介さずに直接にデータをやり取りする「ピアツーピア」の通信技術で、匿名性を保ちやすくなった。さらに通信経路制御装置(ルーター)でデータの行き先を割り振る際、暗号処理する「オニオンリング」という技術を採用し、安全性を高める。

関する様々なサービスの案内は受けたが、住所や名前個人を特定されたくない」という顧客の要望に対応できる。診断データは医療情報会社に送信される一方、医療情報会社の提供する情報サービスは電子メールアドレスを公表しなくても受信

公開データを第三者が

見た場合でもデータの流通経路を調べることができないため、誰の情報なのか個人が特定できない。

ニーモニックは今後、

二つの小規模な通信網を使った実証実験を進める。またデータ処理に時間がかかるため、大規模な通信網でも問題なく使えるように、処理速度を上げる技術の開発を進める。